

1.B.2.c.Venting.i 通気弁（石油産業）（Venting—Oil）（CO₂, CH₄）

1. 排出・吸収源の概要

1.1 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

油田及びガス田では、原油・天然ガスの生産時に発生する余剰ガスの一部を大気に放出して処分するために、通気弁が設置されている。当該分野では、原油生産時に通気弁から漏出する CO₂ 及び CH₄ を扱う。

1.2 排出・吸収トレンド及びその要因¹

【CO₂】

通気弁（石油産業）からの CO₂ 排出量は、2000 年代半ば以降、原油生産量が減少していることに伴い、減少傾向にある。

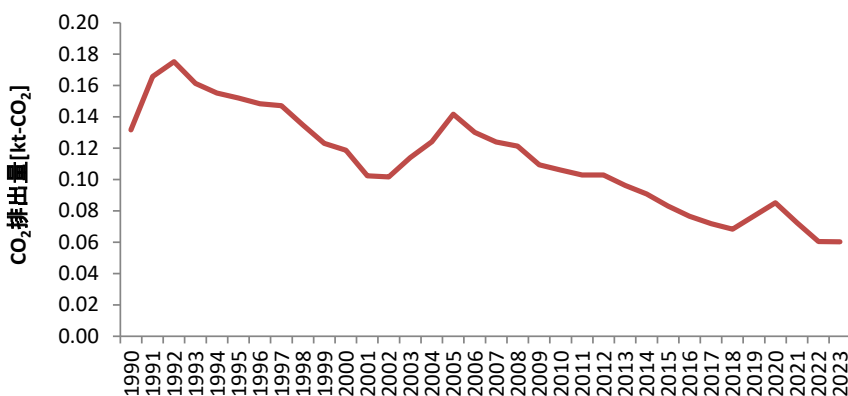


図 1 通気弁（石油産業）からの CO₂ 排出量の推移

【CH₄】

CH₄ 排出量のトレンドは、CO₂ 排出量と同様である。

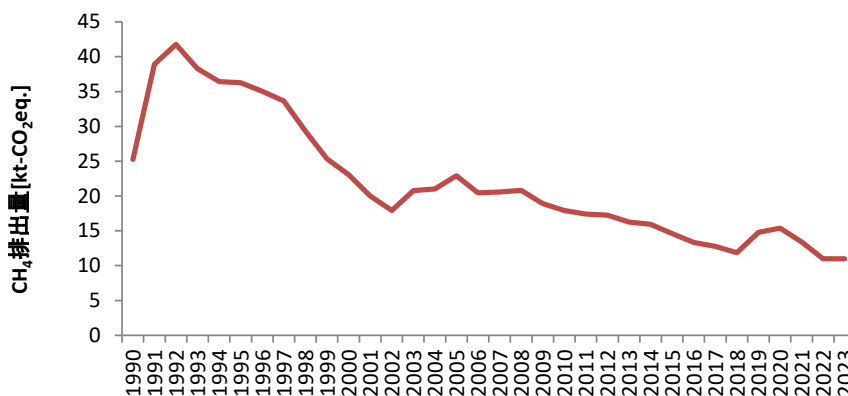


図 2 通気弁（石油産業）からの CH₄ 排出量の推移

¹ ここでいう原油の生産量は、コンデンセートを含まない原油の生産量を示している。

2. 排出・吸収量算定方法

2.1 排出・吸収量算定式

陸上油田、海上油田別原油生産量に排出係数を乗じて排出量を算定する。

$$E = \sum_i EF_i * A_i$$

E : 通気弁（石油産業）からの温室効果ガス排出量 [kt-GHG]

EF : 排出係数 [kt-GHG/千 m³]

A : 原油生産量 [千 m³]

i : 陸上油田、海上油田

2.2 排出係数

2019年改良 IPCC ガイドラインに示されている陸域、海域別の排出係数デフォルト値を用いる。

表 1 通気弁（石油産業）の排出係数 [t-GHG/千 m³]

	CH ₄	CO ₂	N ₂ O
陸上油田 (低排出技術)	2.27	0.45	0
海上油田	1.97	0.12	0

(出典) 2019年改良 IPCC ガイドライン、Vol. 2, page 4.54, Table 4.2.4A 及び page 4.129, Table 4A.2.2

2.3 活動量

陸上・海上油田別の原油生産量（コンデンセートを含まない。）を用いる。なお、天然ガス資料年報で公表される最新年度値はインベントリの最新年度値より 1 年前の値となる。そのため、同統計を出典とするデータの最新年度値は前年度値据え置きとする。

① 海上油田

海上油田からの原油生産量（コンデンセートを含む。）から、海上油田からのコンデンセート生産量を減じて算定する。

$$A_{\text{offshore}} = A_{\text{offshore,conventional}} - A_{\text{offshore,NGL}}$$

A_{offshore} : 海上油田からの原油生産量（コンデンセートを含まない。） [千 m³]

$A_{\text{offshore,conventional}}$: 海上油田からの原油生産量（コンデンセートを含む。） [千 m³]

$A_{\text{offshore,NGL}}$: 海上油田からのコンデンセート生産量 [千 m³]

海上油田からの原油生産量（コンデンセートを含む。）は、「天然ガス資料年報（天然ガス鉱業会）」²に示された海域からの原油生産量を用いる。

海上油田からのコンデンセート生産量については、統計から直接把握することが困難であるため、推計値を用いる。ここでは、コンデンセートが天然ガスの生産に付随して生産されることを踏まえ、コンデンセートの生産量全量に占める洋上ガス田からの生産量の割合が、天然ガス

² 天然ガス資料年報に示されている陸域・海域別の原油生産量は天然ガス鉱業会の会員企業が生産した量のみを対象としているが、海上油田・ガス田を運営する主体となっている事業者は全て天然ガス鉱業会の会員企業なので、我が国の海上油田・ガス田からの生産量の全量がカバーされている。

の生産量全量に占める洋上ガス田からの生産量の割合と等しいと仮定し、下式より算出する。

$$A_{\text{offshore,NGL}} = A_{\text{NGL}} * A_{\text{offshore,naturalgas}} / A_{\text{total,naturalgas}}$$

$A_{\text{offshore,NGL}}$ ：海上油田からのコンデンセート生産量 [千 m³]

A_{NGL} ：我が国全体のコンデンセート生産量 [千 m³]

$A_{\text{offshore,naturalgas}}$ ：洋上ガス田からの天然ガス生産量 [千 m³]

$A_{\text{total,naturalgas}}$ ：我が国全体の天然ガス生産量 [千 m³]

我が国全体のコンデンセートの生産量及び天然ガス生産量については、「エネルギー生産・需給統計年報（経済産業省）」及び「資源・エネルギー統計年報（経済産業省）」より把握する。また、洋上ガス田からの天然ガス生産量については、「天然ガス資料年報」より把握する。

表 2 海上油田からのコンデンセート生産量の推移

	単位	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
天然ガス生産量(日本全体)	百万m ³	2,066	2,173	2,155	2,229	2,272	2,237	2,209	2,301	2,297	2,313
天然ガス生産量(洋上ガス田)	百万m ³	342	417	460	407	425	374	384	376	356	333
洋上ガス田の占める割合	%	17	19	21	18	19	17	17	16	16	14
コンデンセート生産量(日本全体)	千kL	234	279	264	242	239	243	233	266	276	301
コンデンセート生産量(洋上ガス田)	千kL	39	53	56	44	45	41	40	43	43	43

	単位	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
天然ガス生産量(日本全体)	百万m ³	2,499	2,466	2,752	2,814	2,957	3,140	3,408	3,729	3,706	3,555
天然ガス生産量(洋上ガス田)	百万m ³	350	300	378	363	403	361	355	214	190	191
洋上ガス田の占める割合	%	14	12	14	13	14	12	10	6	5	5
コンデンセート生産量(日本全体)	千kL	375	399	461	487	518	541	576	645	633	608
コンデンセート生産量(洋上ガス田)	千kL	53	49	63	63	71	62	60	37	33	33

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
天然ガス生産量(日本全体)	百万m ³	3,343	3,334	3,177	2,940	2,746	2,715	2,797	2,926	2,657	2,467
天然ガス生産量(洋上ガス田)	百万m ³	188	190	196	196	197	190	176	148	113	120
洋上ガス田の占める割合	%	6	6	6	7	7	7	6	5	4	5
コンデンセート生産量(日本全体)	千kL	560	541	478	403	365	339	331	336	301	278
コンデンセート生産量(洋上ガス田)	千kL	32	31	29	27	26	24	21	17	13	13

	単位	2020	2021	2022	2023
天然ガス生産量(日本全体)	百万m ³	2,290	2,262	2,108	1,978
天然ガス生産量(洋上ガス田)	百万m ³	87	83	65	65
洋上ガス田の占める割合	%	4	4	3	3
コンデンセート生産量(日本全体)	千kL	259	252	229	210
コンデンセート生産量(洋上ガス田)	千kL	10	9	7	7

(出典) 天然ガス生産量(我が国全体)、コンデンセート生産量(我が国全体)：エネルギー生産・需給統計年報(経済産業省)、資源・エネルギー統計年報(経済産業省)、生産動態統計年報(経済産業省) 天然ガス生産量(洋上ガス田)：天然ガス資料年報(天然ガス鉱業会)

表 3 活動量（海上油田からの原油生産量（コンデンセートを含まない。））の推移〔千 kL〕

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
原油生産量(コンデンセート含む)(洋上油田)	214	464	506	454	428	432	413	384	314	254
コンデンセート生産量(洋上油田)	39	53	56	44	45	41	40	43	43	43
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	175	411	450	410	383	391	373	340	271	211

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
原油生産量(コンデンセート含む)(洋上油田)	220	195	158	186	163	138	115	118	130	124
コンデンセート生産量(洋上油田)	53	49	63	63	71	62	60	37	33	33
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	167	146	94	124	92	76	55	81	97	91

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
原油生産量(コンデンセート含む)(洋上油田)	109	107	101	97	108	99	88	87	72	118
コンデンセート生産量(洋上油田)	32	31	29	27	26	24	21	17	13	13
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	78	76	72	70	82	76	67	70	59	104

	2020	2021	2022	2023
原油生産量(コンデンセート含む)(洋上油田)	99	93	72	72
コンデンセート生産量(洋上油田)	10	9	7	7
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	89	84	65	65

(出典) 原油生産量（コンデンセートを含む。）（海上油田）：天然ガス資料年報（天然ガス鉱業会）

② 陸上油井

我が国全体の原油生産量（コンデンセートを含まない。）から、上記で算定した海上油田の原油生産量（コンデンセートを含まない。）を減じて算定する。

我が国全体の原油生産量（コンデンセートを含まない。）については、「エネルギー生産・需給統計年報」及び「資源・エネルギー統計年報」に示された原油生産量から、同出典に示されたコンデンセート生産量を減じて算定する。

表 4 活動量（陸上油井からの原油生産量（コンデンセートを含まない。））の推移〔千 kL〕

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
原油生産量(コンデンセート含む)(日本全体)	655	946	981	899	863	866	834	840	773	728
コンデンセート生産量(日本全体)	234	279	264	242	239	243	233	266	276	301
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	175	411	450	410	383	391	373	340	271	211
原油生産量(コンデンセート含まない)(陸上油田)	245	257	267	247	241	232	228	235	226	216

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
原油生産量(コンデンセート含む)(日本全体)	761	734	756	830	860	911	905	979	973	917
コンデンセート生産量(日本全体)	375	399	461	487	518	541	576	645	633	608
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	167	146	94	124	92	76	55	81	97	91
原油生産量(コンデンセート含まない)(陸上油田)	218	188	200	220	251	295	274	253	243	218

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
原油生産量(コンデンセート含む)(日本全体)	853	824	759	668	626	578	549	546	496	524
コンデンセート生産量(日本全体)	560	541	478	403	365	339	331	336	301	278
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	78	76	72	70	82	76	67	70	59	104
原油生産量(コンデンセート含まない)(陸上油田)	215	208	209	195	180	164	152	141	136	142

	2020	2021	2022	2023
原油生産量(コンデンセート含む)(日本全体)	513	473	410	392
コンデンセート生産量(日本全体)	259	252	229	210
原油生産量(コンデンセート含まない)(洋上油田)	89	84	65	65
原油生産量(コンデンセート含まない)(陸上油田)	165	138	116	116

(出典) 原油生産量（コンデンセートを含む。）（我が国全体）、コンデンセート生産量（我が国全体）：エネルギー生産・需給統計年報（経済産業省）、資源・エネルギー統計年報（経済産業省）、生産動態統計年報（経済産業省）

3. 算定方法の時系列変更・改善経緯

表 5 初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	2015 年提出
排出・吸収量 算定式	—
排出係数	2006 年 IPCC ガイドラインで新たに提供された通気弁からの 排出係数に更新。
活動量	—

（1）初期割当量報告書における算定方法

1) 排出・吸収量算定式

原油の生産量に排出係数を乗じて排出量を算定する。

$$E = EF * A$$

E ：通気弁（石油産業）からの温室効果ガス排出量 [kt-GHG]

EF ：排出係数 [kt-GHG/千 m³]

A ：原油生産量 [千 m³]

2) 排出係数

Good Practice Guidance (GPG) (2000) に示された排出係数のデフォルト値を用いていた。なお、GPG (2000) の CH₄ の排出係数のデフォルト値には上限値と下限値が示されているため、それらの中間値を使用していた。

表 6 通気弁（石油産業）の排出係数 [kt-GHG/千 m³]

CH ₄	CO ₂	N ₂ O ²⁾
1.38×10 ⁻³ 1)	1.2×10 ⁻⁵	0

(出典) GPG (2000)、p.2.86 Table2.16

1) デフォルト値は、6.2×10⁻⁵～2.7×10⁻³

2) デフォルト値が「NA」のため算定対象外とする。

3) 活動量

エネルギー生産・需給統計年報（経済産業省）」及び「資源・エネルギー統計年報（経済産業省）」に示された原油生産量（コンデンセートを含む。）から、同出典に示されたコンデンセート生産量を減じて算定した、我が国全体の原油生産量（コンデンセートを含まない。）を用いていた。

表 7 活動量（原油生産量（コンデンセートを含まない。））の推移 [千 kL]

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
原油生産量(コンデンセート含む)	655	946	981	899	863	866	834	840	773	728
コンデンセート生産量	234	279	264	242	239	243	233	266	276	301
原油生産量(コンデンセート含まない)	420	667	717	657	624	623	601	575	497	427

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
原油生産量(コンデンセート含む)	761	734	756	830	860	911	905	979	973	917
コンデンセート生産量	375	399	461	487	518	541	576	645	633	608
原油生産量(コンデンセート含まない)	386	334	295	344	343	370	329	334	341	310

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
原油生産量(コンデンセート含む)	853	824	759	668	626	578	549	546	496	524
コンデンセート生産量	560	541	478	403	365	339	331	336	301	278
原油生産量(コンデンセート含まない)	293	284	281	265	262	240	219	210	195	247

	2020	2021
原油生産量(コンデンセート含む)	853	824
コンデンセート生産量	560	541
原油生産量(コンデンセート含まない)	293	284

(出典) 原油生産量（コンデンセートを含む。）、コンデンセート生産量：エネルギー生産・需給統計年報（経済産業省）、資源・エネルギー統計年報（経済産業省）、生産動態統計年報（経済産業省）

（２）2015 年提出インベントリにおける算定方法

1) 排出・吸収量算定式

初期割当量報告書の算定方法。

2) 排出係数

2006 年 IPCC ガイドラインに示されている排出係数のデフォルト値を用いていた。

表 8 通気弁（石油産業）の排出係数 [kt-GHG/千 m³]

CH ₄	CO ₂	N ₂ O ¹⁾
7.2×10^{-4}	9.5×10^{-5}	NA

(出典) 2006 年 IPCC ガイドライン、vol. 2、p.4.50 Table 4.2.4

1) デフォルト値が「NA」のため算定対象外とする。

3) 活動量

初期割当量報告書の算定方法と同様。

（３）2024 年提出インベントリにおける算定方法

1) 排出・吸収量算定式

2019 年改良 IPCC ガイドラインにおいて当該排出源が細分化されたことに基づき、「陸上油田」、「海上油田」の 2 区分に細分化した（現行の算定方法と同様）。

2) 排出係数

2019 年改良 IPCC ガイドラインに基づき、陸上、海上別に設定することとした（現行の排出係

数と同様)。

3) 活動量

2019 年改良 IPCC ガイドラインに基づき、陸上、海上別に設定することとした（現行の活動量と同様）。